

AI特許

～ 事例紹介を中心に ～

特許業務法人

HARAKENZO

WORLD PATENT & TRADEMARK

東京本部

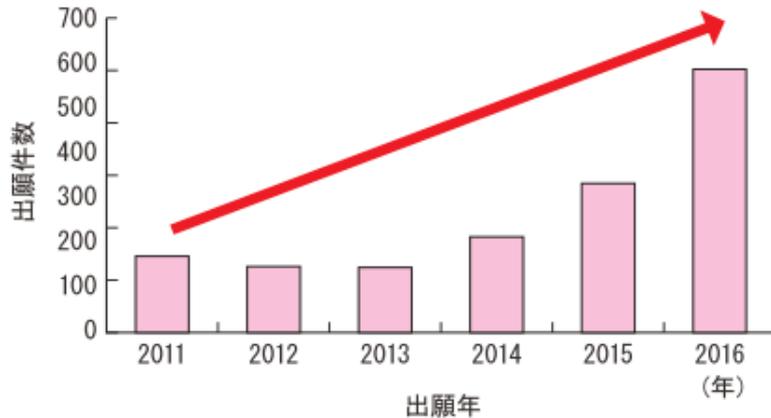
博士（理学）岡田 雄一郎

AI関連発明の出願動向

特許行政年次報告書2018より

■ 国内におけるAI関連発明の出願件数 (出典)特許庁

(国内出願件数、及び、PCT出願のうち日本へ国内移行した件数の合計)



IPCとしてG06F15/18, G06N が付された出願をAI関連発明としている。

- ・G06F15/18 : 計算機自身がある動作期間で得た経験に応じてプログラムが変化されるもの; 学習機械
- ・G06N : 特定の計算モデルに基づくコンピュータ・システム [7]

【国内】

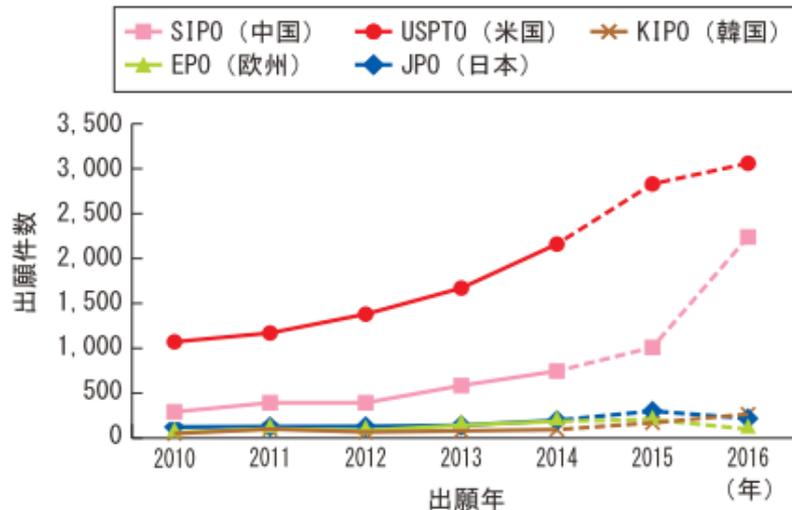
- 2013年以降、出願件数は大きく増加している。
- 2016年は586件。前年比76%増。
- AI関連研究開発が拡大していることが見てとれる。

【五大特許庁】

- 米国・中国での出願件数が非常に多く、さらに増える見込み。
- ディープラーニング等のニューラルネット関連発明については、中国出願件数が米国出願件数を大きく上回る見込み。
- 日本出願件数は、韓国・欧州と同程度。

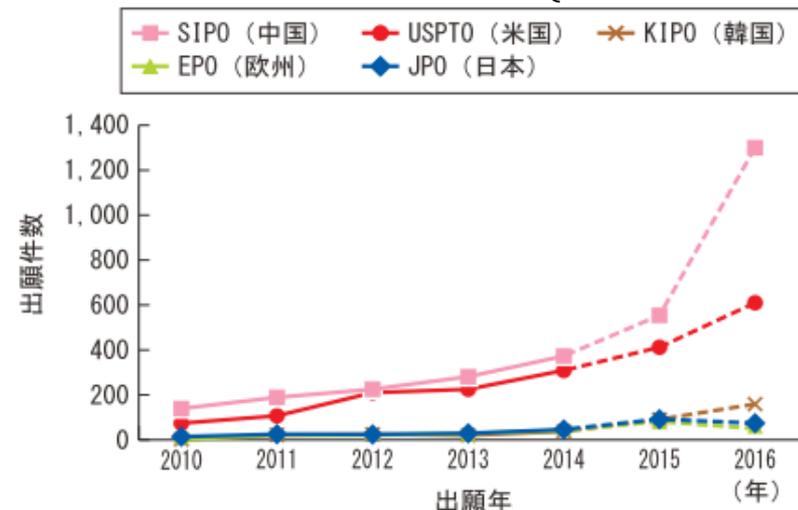
■ 五大特許庁における出願件数 (出典)特許庁

① AI 関連発明の出願件数



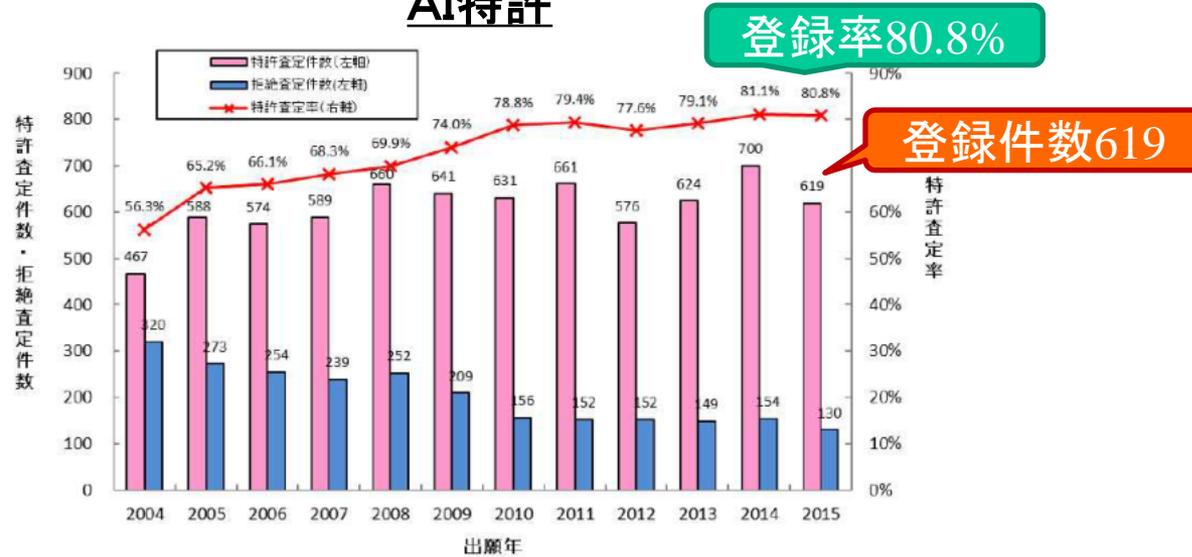
② ニューラルネット関連発明の出願件数

AI関連発明のうち、IPCとしてG06N3/02-G06N3/10が付された出願



参考：特許査定率の比較

AI特許



ビジネスモデル特許

